

共助社会づくりフォーラム in 北海道 次第

日時 平成27年1月23日（金）14:00～

場所 道庁赤れんが庁舎2階2号会議室

14:00 開催あいさつ・報告

林崎 理 内閣府大臣官房審議官（経済社会システム担当）

14:15 基調講演

テーマ 「共助社会とは」
～共助社会づくりに向けた展望

田尻 佳史 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事／内閣府共助社会づくり懇談会委員

15:00 休憩

15:10 パネルディスカッション

テーマ 「共助社会を支え合う関係づくり」
～NPO、企業、地域コミュニティなど多様な主体の共助社会への関わり方

【コーディネーター】

河西 邦人 札幌学院大学経営学部経営学科教授

【パネリスト】

田尻 佳史 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事／内閣府共助社会づくり懇談会委員

瓜田 勝也 認定特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト副理事長

加納 尚明 一般社団法人プロジェクトデザインセンター代表理事／特定非営利活動法人札幌チャレンジド理事長

桑田 正博 白老町町内会連合会事務局長

石山 裕太郎 千歳市梅ヶ丘1丁目町内会青少年部長／千歳高校2年

16:35 閉会あいさつ

佐藤 敏 北海道環境生活部くらし安全局長

登壇者プロフィール

報告

林崎 理 内閣府大臣官房審議官（経済社会システム担当）

特定非営利活動促進法を担当し、「共助社会づくり懇談会」の運営、「共助社会づくり」の推進に取り組む。「経済財政諮問会議」の運営事務局でもあり、50年後の日本の未来像と今後の課題を議論し、政府の審議会として初めて2060年「人口1億人」維持を目標として打ち出した「選択する未来」委員会の運営にも携わる。総務省時代には地方行政制度の企画立案に携わっていた。札幌生まれ。

基調講演／パネルディスカッション パネリスト

田尻 佳史 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事／内閣府共助社会づくり懇談会委員

大学卒業後、4年間の海外でのボランティア活動を経て、大阪ボランティア協会の職員となる。阪神・淡路大震災では「阪神・淡路大震災 被災地の人々を応援する市民の会」の現地責任者として従事。'96年11月より日本NPOセンターに出向（'03年転籍）。市民活動の基盤整備を推進すべく、NPOと他セクターとの連携のためのコーディネーション、各種プログラムの企画立案を手掛ける。東日本大震災では「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の構成団体の一つとして関わるほか、東日本大震災支援全国ネットワーク（通称CN）の代表世話人を務める。

パネルディスカッション コーディネーター

河西 邦人 札幌学院大学経営学部経営学科教授

青山学院大学経営学研究科博士課程修了後、外資系金融機関勤務を経て、'08年より札幌学院大学に勤務。市民と行政の双方の目線から協働によるまちづくりを提唱し、北海道における協働の第一人者として幅広く活躍している。

パネルディスカッション パネリスト

瓜田 勝也 認定特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト副理事長

'86年霧多布ファンクラブ発足時から運営委員として活動に参加。'00年NPO法人に移行の際副理事長に就任し、'04年には北海道初の認定NPO法人となる。自然の楽しさや大切さを紹介する宿づくりを夢みて'86年ペンションをオープンした。自然ガイドとしても活動し、霧多布湿原をカヌーで案内している。

加納 尚明 一般社団法人プロジェクトデザインセンター代表理事／特定非営利活動法人札幌チャレンジド理事長

民間企業勤務を経て'00年NPO法人札幌チャレンジドの活動に参加、'06年事務局長就任。'08年から3年間、任期付き職員として札幌市に勤務し、'11年一般社団法人プロジェクトデザインセンターを設立。民間、NPO、行政の言語がわかる貴重な存在であり、企業の社会貢献とNPO活動のコーディネーターとして活躍している。

桑田 正博 白老町町内会連合会事務局長

'13年6月白老町町内会連合会事務局長に就任。同連合会は、町の18の地区連合会を束ね、町の広報誌の編集を受託するなど、行政との協働でも先進的な取組を行っている。

石山 裕太郎 千歳市梅ヶ丘1丁目町内会青少年部長／千歳高校2年

千歳市平均を上回る高齢化率の梅ヶ丘1丁目町内会で、'14年4月青少年部長に就任。「若い力や発想が必要」と町内の期待を受け、就任後初めて企画した夏まつりでは、前年より30名多い100名が参加した。